HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS 八戸学院

vol.30
キャンパス八戸学院

リレー・フォー・ライフ・ジャパンin八戸

第4回宣誓式を開催（看護学科）

八戸学院の集い

野辺地祭りに参加

Contents

法　人
・八戸学院フェスタ
・光星学院親睦チャリティーゴルフコンペ

八戸学院大学
・リレー・フォー・ライフ・ジャパンin八戸
・平成25年度　第１回オープンキャンパス開催
・八戸学院光星高校３年
　ビジネス科の体験学習を実施

八戸学院短期大学
・看護学科　第４回宣誓式
・幼児保育学科　就職相談会を開催
・ライフデザイン学科　ビジネスマナー講座
・企業見学を開催

八戸学院光星高等学校専攻科
・JAMCAニュース・活躍!卒業生
・パークゴルフ大会開催

八戸学院光星高等学校
・エドグレンスクールと姉妹校締結
・ものづくりコンテスト2013青森県大会
　自動車整備部門優勝
・八戸学院の集いを開催

八戸学院野辺地西高等学校
・のへじ祇園祭り
・第１回東北高校女子レスリング大会において
　清水目姉妹女王・準女王に

キャンパス八戸学院 第30号　2013（平成25年）年8月29日発行

HACHINOHE GAKUIN　「八戸学院」名称統一記念

八戸学院フェスタ

～君とずーーーーーっと仲間で～

【と　き】平成25年11月6日（水）10:00～14:45
【ところ】八戸市公会堂 大ホール
【第１部】幼稚園３園合同「星の子音楽会」
【第２部】高校・短大・大学「合同発表会」
【主　催】学校法人光星学院（総務部 TEL.0178-30-1411）

八戸学院

会場の都合上、一般公開はいたしません。

八戸学院大学

リレー・フォー・ライフ・ジャパンin八戸

平成25年６月22日(土)～23日(日)、八戸市長根運動公園において「がん患者支援チャリティ・イベント　～リレー・フォー・ライフ・ジャパン in 八戸～」が開催されました。

リレー・フォー・ライフ(以下ＲＦＬ)は、1985年にアメリカワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会のゴルディー・クラット医師が始めたイベントです。日本で最初に開催されたのは2006年の茨城県つくば市で、年々開催地は増え、今年度は既に行われたものを含めて43ヶ所の地域で予定されています。

今回のイベントには、八戸学院大学・八戸学院短期大学から８チーム総勢約200名の学生、教職員が参加しました。ステージイベントでは、八戸学院大学のバリー・グロスマン教授によるラフターヨガも行われ、多くの参加者は終始和やかな雰囲気の中、あたたかい笑いに包まれました。夕方からはがんで亡くなった人たちを偲び、また、がんと闘っている人たちへの思いをキャンドルに託し祈りを捧げる「ルミナリエ」という催しも行われました。そしてメインである24時間ウォークでは、参加した学生によりイベント開始から終了まで一度も途切れることなくリレーが続き、中でも深夜から朝方にかけて歩いたアイスホッケー部と硬式野球部の学生は、イベント全体を通してみても非常に重要な役割を担いました。このことも評価され八戸学院大学・八戸学院短期大学は、ＲＦＬ八戸実行委員会から八戸市、エスプロモと並びGood Supporterを授与され、代表で吉田稔人間健康学部長が受領しました。

このイベントを契機として、青森県をガンに強い地域に変えていき、ガンに負けない社会になっていくようＲＦＬは今後も続いていきます。

最後に、ＲＦＬ開催に伴い寄付をしていただいた学生、教職員の皆様には感謝しますとともに、集まった寄付金は公益財団法人日本対がん協会に寄付され、世界中のがん患者支援のために使われることをお知らせします。

外郭3団体(後援会、同窓会、父母の会)総会開催される

八戸学院大学後援会理事会が平成25年７月６日(土)に八戸ワシントンホテルで開催された。山田政信会長が挨拶し、続いて大谷真樹八戸学院大学学長が「八戸を担う地域の若者の未来・笑顔につなげるような教育をしていきたい。地域のための大学として地元の企業とも連携していきたい」と挨拶を述べられた。昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について審議され、全て承認された。

八戸学院大学父母の会総会が平成25年７月７日(日)に大学会館で開催された。小野十三宏会長の挨拶のあと、昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について審議され、全て承認された。総会後、教務学生課とキャリア支援課から教務関係や学生生活、就職について説明が行われ、出席した父母は熱心に聞き入っていた。

八戸学院大学同窓会評議員会が平成25年７月７日(日)に八戸ワシントンホテルで開催された。堤静子会長の挨拶のあと、昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について審議され、全て承認された。また、役員の補充が行われ、新監査について承認された。

平成25年度 第1回 オープンキャンパス開催

平成25年７月27日㈯に今年度最初のオープンキャンパスが美保野キャンパスで行われ、生徒、保護者あわせこれまで最多の約300名が参加しました。校名変更後初の開催とあり、大学案内、パンフレット、リーフレット、のぼり旗、スタッフＴシャツ、グッズなどの新たなシンボルマークで新生「八戸学院」をアピールするイベントとなりました。

今回はクラブ・サークル紹介、学部学科紹介、体験授業などがおこなわれました。クラブ・サークル紹介では軽音学部、ダンスサークル TWINKLE、ラグビー部、弓道部、来年４月創部の女子サッカー部がデモンストレーションを行いながらステージをわかせました。学部学科紹介、体験授業では教室をいっぱいにした参加者の熱心に耳を傾ける姿が多くみられました。個別相談、在学生フリートーク、キャンパスウォーク（施設見学）では、参加者から「体験授業の内容が興味深かった。頑張って勉強したい」「より一層入学後がイメージできた」「在学生と話し進路選択の不安が解消した」などの感想がよせられました。

今年度は、９月28日㈯、３月９日㈯の開催です。

光星高校3年（ビジネス科）の体験学習を実施

平成25年７月１日㈪～３日㈬に、八戸学院大学と八戸学院短期大学において、光星高校ビジネス科ビジネスコース３年Ｑ組11名の体験学習（学習体験および校外実習）が行われた。

体験授業では、午前と午後各２コマ（１コマ90分）、実際の授業時間の長さと大学生が授業で使用している教室で、八戸学院大学ビジネス学部 矢野峰生教授による「マーケティング」、G．アンソニー講師の「英語」、人間健康学部 金地美知彦講師の「心理学」を体験した。八戸学院短期大学では、茂木典子学長補佐による「国語表現」、ライフデザイン学科馬場祥次准教授の「ゼミ」で短期大学の授業の雰囲気を体感した。

また、キャリアプランニングとして松山政義学務部長らによるキャリア選択の講義も行い、生徒それぞれが進学・就職の具体的な目標設定を行い皆の前で発表、本学への進路希望も語られるなど今後の進路決定に役立った３日間となったようだった。

第6回 介護従事者のための公開講座
「かいごの学校」開催

平成25年６月23日、美保野キャンパスを会場に第６回介護従事者のための公開講座『かいごの学校』を開催しました。この講座は、全国の介護現場で活躍する現職者を応援しよう！という趣旨に賛同してくださった講師陣が、自身の現場での実践をもとに受講者に本音でメッセージを語るというものです。６回目の今回は、「深く、そして、より高く」をメインテーマに今まで最多の17の分科会を開催しました。

参加者自らが選んで受講する分科会はタイトルからしてユニークなものとなっています。例えば、「国家資格になれば、ケアマネはそれでいいんですか？～介護保険制度とのジレンマの中で～」（講師：八戸学院短期大学　准教授 小川あゆみ 氏）、「ヨガ身体・ヨガ呼吸・ヨガ心ー理論と実践ー」（講師：ヨガ講師 島守尚美氏）、「「介護という仕事」のブランド化を進めるためには～B-１グランプリ仕掛人、そして、グランプリを獲得した「せんべい汁」から盗める視点～」（講師：八戸広域観光推進協議会コーディネーター・八戸せんべい汁研究所事務局長 木村 聡 氏）、「民間（有限や株式会社）の介護事業者を金儲け主義と言うけれど～社会福祉法人・株式会社・有限会社で介護を実践した私が思うこと～」（講師：アサヒケアサービス有限会社 みやびの里　施設長　黒川百合子 氏）など、一般の研修会やセミナーとはひと味違う講座を用意しました。

中でも、好評だったのは、「介護と看護の時代である今こそ～深く、そして、より高く～」（講師：日本赤十字看護大学名誉教授 川嶋　みどり氏）は、看護と介護の協働の必要性を被災地支援の実態から報告され、350名を超える人が受講されました。

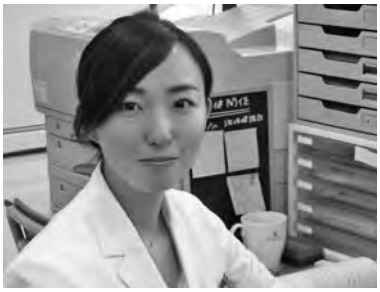
また、昨年に引き続き、すべての講座終了後にミニライブを開催し、ミュージシャンのアシガルユースが登場しました。

今回の講座も、地域の介護力アップを目的に、『学ぶ研修』だけではなく『感じる研修』も意図して企画し、青森近県に留まらず、関東、関西などからの受講もあり、400名を超える受講者を集めました。

６回目の講座を終え、今後も地域の高等教育機関として、対人援助専門職を養成すると同時に、地域の介護力や福祉力の底上げする機会を作り出していければと考えています。

（八戸学院大学　人間健康学部
教員　篠﨑良勝）

「八戸学院大学」OB&OG訪問 part30



青森県立八戸北高校
養護助教諭 家口 美輝 さん

プロフィール
青森県立八戸南高等学校　卒業
八戸大学　人間健康学部　２期生
青森県立八戸北高等学校　養護助教諭

■学生時代の思い出を聞かせてください。

発達障害をもつ子どもたちとかかわるボランティア活動に多く参加させてもらいました。特に、小学校の学習支援員は教育現場に就きたいという意欲を高めるきっかけになりました。また、カタリバ（高校生を対象にしたキャリア教育の活動）は、高校生と直に対話する中で、話をうまく引き出すことの難しさや人とつながる大切さを学びました。

アルバイトは接客業をしていましたが、社会人としての前に人として大切なことを教えていただきましたし、自分とは全く違う価値観を持った人との出会いなど、驚きと楽しさの連続でした。

■社会に出て感じること心掛けていることはありますか

一番は、何事においても学びの精神を忘れないことです。実際に働いてみると、社会人として世間知らずだなと感じましたし、知識や経験不足だなと痛感する毎日でした。保健室を利用する生徒は、体調不良だけでなく心の問題を抱えている場合も多いため、自分自身の経験だけでは適切な助言をすることはできません。そのため、様々なジャンルの本を学生時代よりも読むようになりました。また、初心を忘れないよう常に謙虚な気持ちでいることを心掛けています。

■後輩へのメッセージ

学生のときにしかできないことに自分からチャレンジしてほしいと思います。学祭や趣味、バイト、友人と遊ぶことなど何でもいいと思います。ポイントは、どれだけ真剣に取り組むかです。その中で、成功と失敗を繰り返しながら多くのことを感じ取り、今後に活かしてもらいたいです。

学生時代は、自ら動かなければ何も残りません。まずは、小さな選択肢から自分の意志で決めて行動してみる。そこから自分の道を見つけてほしいと思います。

八戸学院短期大学

第４回　宣　誓　式

平成25年度八戸学院短期大学看護学科第４回宣誓式が５月11日㈯、八戸学院大学会館において挙行された。宣誓式とは、看護の道を志し入学した２年生が、１年余りの基礎看護教育を終えた後、看護の専門性と責任を再認識して看護の道を歩むことを誓う式であり、今回は４期生73名が主役である。

宣誓の儀では、キャンドルを手に、本学の建学の精神である「神を敬し人を愛する」を基に学び続けることを、そしてナイチンゲールの精神に基づき、人々の幸せのために貢献できる看護師になることを力強く誓った。宣誓の儀に続き、外崎充子学長が式辞、続いて公益社団法人青森県看護協会齋藤文子会長の祝辞が述べられた。在学生を代表して３年生吉村智佳子さんによるお祝いの言葉に続き、宣誓者を代表しては山口瑠璃子さんが「患者様の情やふるまいに表われるかすかな変化も感じ取れるよう、感性を磨きながら、更なる知識と技術の向上を目指したい」と決意を述べ、最後に「いつくしみと愛」と「学歌」を斉唱し、宣誓式は終了した。

宣誓式に引き続き、宣誓式特別記念講演が開催された。講師である村松静子先生（在宅看護研究センターＬＬＰ組合員代表）は、「あなたに伝えたい看護の心とわざ」と題し、講演を行った。学生からは、「自分を励ましながらたくさん努力をしたい」「測定器具にだけ頼らず手で触れ五感を活かしながら看護がしたい」「心のこもっていない手は逆効果だということが印象に残った」など、多くの感想が聞かれた。今年の新しい試みとして卒業生へ宣誓式の案内を出したところ、参加した卒業生が10名いた。１年生の羨望のまなざし、２年生の誇り、３年生の優しさに加え、卒業生の成長を実感できた宣誓式は、開学５年目という短くも着実な歴史を感じることができ、さらなる発展への責任を自覚する重みのある行事であった。

幼児保育学科　就職相談会を開催

平成25年６月26日㈬八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、幼児保育学科２年生97名が参加し、就職相談会が開催された。今回の就職相談会を通じて「施設の目的」「業務内容」「求める人材」等を学び、就職活動に対する心構えや意識付け、卒業後の進路を見据えた学生生活の向上を目標に、毎年この時期に開催している。

今年度は、地元八戸市を始め、三沢市や十和田市、青森県南地域、岩手県北、そして初めて東京都を拠点とする保育園も招き、幼稚園４施設、保育所12施設、障がい者支援施設４施設に参加いただいた。施設担当者からは、「実際に学生と触れることで、現在どのような思いを抱いているのか知ることができ、施設側もとても良い刺激となった」「熱心に話を聞くという姿勢が受け身と見え、担当者の説明を聞くだけで、積極的な意見や質問などがなく、意欲が感じられなかった」というご感想をいただいた。

就職相談会に参加した学生は、「どのような人材が必要とされているのか」「地元や県内の保育所の事もわかり、関東の保育所の様子や内容も知ることができた」との感想が寄せられた。

就職に対する考え方や心構えの変化は、「意識して就職について色々調べ、早めに準備しようと思った」「一般職を希望していたが、実際に施設の話を伺い、勤めたいと思うようになった」など実りある意見や感想が多く見られた。

今回の就職相談会で学んだ経験を活かし、将来の目標に向かって有意義な学生生活を過ごしてほしい。

ビジネスマナー講座・企業見学を開催

ライフデザイン学科では、就職指導の一環として、外部講師をお招きし、諸講座や就職ガイダンスを実施しており、今年度は平成25年５月27日㈪にビジネスマナー講座、６月３日㈪に企業見学が実施された。

ビジネスマナー講座では、講師に田原美晴氏をお招きし、「面接時のマナー」と題し、就職活動に直結する講座を開講していただいた。田原氏は、身振り手振りで熱心に指導され、学生達も緊張感を持ち、本番さながらに取り組んでいた。

企業見学では、八戸市にある株式会社ビジネスサービス様に訪問した。担当者から会社説明や社会人としての心構え、接客業の楽しさや難しさなど実際に職場で体験した出来事を熱心に話していただき、学生達もメモを取りながら耳を傾けていた。

ライフデザイン学科２年生を対象とした就職指導が２週に渡り実施され、就職活動に対する心構えができたように思う。今回の経験を活かし、一人でも多くの学生が希望する職業に就き、社会で活躍してほしいものである。

白熱！スポーツ祭

学生会主催のスポーツ祭が、６月12日㈬の午後に短期大学前の運動場で開催された。短期大学３学科（幼児保育学科・ライフデザイン学科・看護学科）１・２年生約400名が一堂に会して行うもので、ゼミごとに分かれて対抗するという形式で実施されている。

このスポーツ祭では、スポーツ・レクリエーションを通じて身体を動かすことを楽しみ、ゼミ単位での活動を通して学生同士が連帯感や達成感を共有し、仲間づくりを体感し、学科を超えた学生全体の交流を深めるとともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として開催されている。

今年の種目は、長縄跳び・綱引き・障害物リレー・ゼミ対抗リレーの４種目に決定。白熱した競技が繰り広げられ、運動場には笑顔と歓声、そして惜しみない拍手や大声援が響き渡った。教職員チームも参加し、大いに盛り上がった。総合順位では「幼児保育学科（橋本ゼミ）」チームが優勝となり、栄冠を手にした学生たちは勝利の雄叫びをあげ喜びを分かち合っていた。天気にも恵まれ、広々とした運動場で実施されたスポーツ祭は、28チームそれぞれのドラマが生まれ学科の枠を超えて親睦を深めることができ、学生たちにとって有意義な時間となったようである。

砂浜彫刻

７月10日㈬に幼児保育学科の学生約230名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、砂浜彫刻制作に取り組んだ。この砂浜彫刻実習は、幼児保育学科の学科行事として毎年行っており、今年で11回目の実施となる。保育者を目指す学生は、子どもの好きな「砂遊び」を、幼稚園教育要領「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の５領域全てを網羅している遊び場としてとらえ、実際の砂浜彫刻体験を通して八戸市の素晴らしい自然を体感し、豊かな自然から多くの学びがあることを知り、自然の素晴らしさなどを子どもに伝えられるようになることを目指している。

全12グループのゼミ単位に分かれ活動は行われている。事前に紙粘土で模型「マケット」を作りイメージを膨らませた学生は、砂浜でスコップで穴を掘り、砂を盛り上げ、バケツで運んだ海水で砂を踏み固める。また、貝殻等を集めたりと約２時間程度、協力して作品の制作を行った。白浜海岸には、学生たちが制作した様々な作品が並び、砂まみれになった学生たちは、完成された作品を取り囲み記念撮影を行うなど夏の白浜を満喫している様子が見られた。

八戸学院光星高等学校専攻科

「ＪＡＭＣＡニュース・活躍！卒業生」に本校卒業生の松川敏雄様（第８回生Ｓ58卒）が執筆し掲載

紹 介

専攻科自動車科は全国自動車大学校・整備専門学校協会（JAMCA）に加盟しております。協会では会員校間のコミュニケーションの促進を目的に、「JAMCA ニュース」を発行しており、今回７月１日発行の「JAMCA ニュース・活躍！卒業生」に本校卒業生の松川敏雄様（第８回生S58卒）が執筆し掲載されました。学生時代は学生会会長、現在は専攻科の同窓会長でもあり、また自動車業界においてもご活躍されております。

人をまとめる責任の大切さ

株式会社マツダアンフィニ青森
マツダアンフィニ八戸　取締役
店 長　松 川 敏 雄
八戸学院光星高等学校専攻科
自動車科第８回生・昭和58年３月卒

私は生まれが八戸市湊町で父が漁師だったこともあり、船乗りに憧れ八戸水産高校に進学しました。しかし、父が水難事故で亡くなったこともあり、母親の猛反対にあい進路を変更せざるをえませんでした。機械いじりがすきだったので自動車整備士へ思いを変え光星学院高等学校専攻科自動車科（旧校名）へ入学しました。

当時は、毎年卒業生全員が自動車整備士国家試験に合格しており、自分たちの年代で途絶えることは許されないプレッシャーを感じておりました。１クラス50名を超える体制での授業は賑やかすぎてまとまりがありませんでした。２年生に進級し担任の先生より学生会会長を任されて責任の重さを感じました。そんな時、自分たちで楽しい行事を新しく創ってはどうかと先生方から提案され、研修旅行や文化祭を立ち上げたのを記憶しております。しかし、新しい行事を立ち上げるには学生全員の賛同が得られなければならず、一人ひとりを説得し、先生方の助言を得ながら進め、行事が成功した時は、大変でしたが今までにない充実感を得たことが今の自分に生きているように思います。

全員の学生が自動車整備士国家試験に合格するにも大変で、冬休みも返上で仲間同士が助け合い、更に先生方のご指導もあり全員合格を達成した時は、伝統を守れて良かったとホットしました。

就職は、マツダのディーラーにできたのですが、一年目より整備士でなく営業職を命ぜられ不安を感じながらも仕事に集中し、三年目からトップの営業成績を獲得することができ、27歳で店長、2011年よりマツダアンフィニ青森の取締役に就任することができました。

今、振り返ってみますと私の人生のきっかけとなった光星学院専攻科での学生会会長、人をまとめる楽しさ、全員が一つの目標へ向かって伝統を守っていくことの大切さをこの学校で学ばせていただきました。個人だけでは何もできないが、チームで実行することの意義を社会にでて役立てることができたこと、これが、今日の私の原点であります。

校長先生をはじめ諸先生方に今でも感謝しております。

パークゴルフ大会開催

平成25年５月17日㈮、介護福祉科１年生30名と２年生35名が交流を深めるため、八戸市美保野にある「パークゴルフクラブ」を会場に「パークゴルフ大会」が開催されました。学生全員でスクールバスに乗り込み移動し、会場での昼食を済ませた後、入学間もない、やや緊張気味の１年生と先輩である２年生の混合でチームを編成し、チームに分かれ、ゲームを楽しみました。日頃、学内では会話をすることの少ない１年生と２年生が親睦を図る良い機会となりました。

久々の晴天に恵まれ、おいしい空気を吸いながら、“ナイスショット！”と歓声もあがり、楽しいひとときを過ごしました。

八戸学院光星高等学校

エドグレンハイスクールと姉妹校締結

6月25日、本校オープンスペースにおいて、八戸学院光星高等学校　橋場保人校長　および　エドグレンハイスクール（米軍三沢基地内）　ジョージア・ウォターズ校長による姉妹校締結の調印式が行われました。これは、橋場校長の今後の時代を見据えてのものであり、4月25日および6月17日の両校長会議で、教育、スポーツ、文化交流を通じて相互の友好親善を図ることに理解と合意がなされたものである。さらに、この青森の地でお互いの絆を深めることにより、両校の生徒達が、アメリカ合衆国と日本のさらなる相互理解をし、世界に大きく羽ばたき、成長することを希望し、さらなる発展の促進に努めるものである。式終了後、橋場校長は「部活動の積極的な交流のほか英語教育の向上にもつなげたい」ウォターズ校長は「学ぶことがたくさんある。心から友好を受け入れたい」と笑顔で答えた。本校は、これにより年に複数回の長期のホームステイや光星祭等の交流も促進され、英語の会話力とグローバルな教養、人格を備えた人材の育成に大きな成果を出せるものと期待しております。また、八戸学院光星高等学校は、東北高校(1986年 韓国)ディケーター高校(1993年 米国) リッチモンドインターナショナルハイスクール（1995年 カナダ）カムリエン高校（2010年 カンボジア）と合わせて5校の姉妹校を有することになった。

ものづくりコンテスト2013 青森県大会
自動車整備部門　優勝

高校生ものづくりコンテスト2013青森県大会（自動車整備部門）が平成25年6月23日㈰に青森トヨペット㈱研修センターに於いて開催され、工業技術科自動車整備士コース3年S組の井手尋斗君が出場した。競技は次の4つの課題がローテーションで行われる。

課題1は、学科で三級自動車整備士ガソリンエンジンとシャシの問題が50問出題される。課題2は、ピストンの外径やシリンダの内径を100分の1ミリ単位までの測定作業。

課題3は、実際に車両を用いてエンジン・オイルや冷却水の点検、ディスクブレーキパットの良否判定をするなどの定期点検作業。課題4は、ベンチエンジンを用いて、始動不能なエンジンの不具合箇所を探し出し部品交換をして始動させる故障原因探求作業である。

各課題とも制限時間25分以内に完成させ、その完成度や技術度、マナー、態度が評価される。課題1から3まではそれほど大きな差がなく、課題4が勝負の分かれ目と予想された。理由は課題4で使用されるエンジン（トヨタ1JZ-FEベンチエンジン）が学校に無いため、ディーラーに出向き1回しか勉強できなかったからである。

競技の順番が抽選で行われ井手君は難関の課題4からのスタートとなった。しかし彼はこの課題を見事順調にこなし何とか制限時間内に終えることができた。次の課題3は慎重になりすぎて制限時間内に終えることができず大きく減点されたが、残りの課題1、2は普段の練習通りに行うことができた。結局、選手の中で課題4を時間内に作業を終了できたのは、井手尋斗君一人だけだった。成績発表の結果2位に3.5点差をつけて見事優勝し、8月1日から秋田県で行われる東北大会の出場権を得た。

八戸学院の集い

去る６月21日、本校と野辺地西高等学校合同、八戸学院の集いが催されました。

昨年までは「野辺地西高等学校同窓会」、「光星学院高等学校関東の集い」と別々に行っていた会を、今年度は『八戸学院』に名称が統一された最初の年を記念して、共同開催することになりました。「八戸学院の集い」と銘打って行われた会で、来賓としてお招きした法官新一理事長より「東京に住むたくさんの卒業生達と今後の集いを盛り上げていきたい」とご祝辞を頂戴しました。本法人総務部総務課道合洋参事、第一ビルメンテナンス代表取締役社長三浦光一氏（昭和47年度卒）、高栄警備保障株式会社代表取締役社長高橋寿氏（野辺地西高等学校事業所後援会会長）他たくさんの方々、同窓生にご出席いただきました。株式会社駒形どぜう常務取締役谷真二氏の乾杯ののち、本校と野辺地西高等学校の学校紹介ＤＶＤの上映が行われました。また、若林憲生氏（昭和39年度卒）は、相撲甚句をご披露してくださいました。本校平成11年度卒業生で、現在ＴＢＳ系「みのもんたの朝ズバッ」のエンディングテーマを歌っている歌手山本雅也さんのミニライブでは、歌とトークで会場は多いに盛り上がりました。また、会場では、山本さんのＣＤの即売も行われ、歌声に感動した同窓生達がたくさんのＣＤを買い求めていました。盛りだくさんの企画でしたが、和やかに会は進み、両校の同窓生達は久しぶりに会った仲間や先生方と話に花を咲かせていました。中締めで、本校同窓会関東支部長菊地孝志氏が、「本法人卒業生として学んだことを胸に活躍して欲しい」と締めくくりました。今後は、日程・会場等についても検討し、今年以上にたくさんの卒業生が集える大きな会に発展し、企画されることを願っています。

インターハイ出場

レスリング部 インターハイを終えて

今年度のインターハイが８月５日～８日の４日間、長崎県島原市で行われました。学校対抗戦では１回戦、佐賀県代表鳥栖工業高校と対戦。50kgは不戦敗、55kg判定負けと先行され苦しい展開となりましたが、60kg葛西が流れを取り戻しました。その後は３年生が奮闘し、74kg川原、84kg中森、120kg浜谷が勝利、一回戦を突破することができました。

続く２回戦は、今大会準優勝の三重県代表いなべ総合学園高校と対戦。エリート集団の対戦相手に対し全力で挑んだものの、一つの勝ち星を上げることもできずに完敗。勝利を目前にして逆転負け、１点差を取り返すことが出来ず判定負けなど、勝負所の厳しさに大きな差があったことが敗因でした。

個人対抗戦には４名が出場し、96kg小野がベスト16まで勝ち上がりました。60kg葛西、84kg中森、120kg浜谷は初戦は突破したものの、どの試合も敗因は、一瞬の厳しさでした。

３年生にとって最後の夏、全国の大舞台は、間違いなく彼らを成長させてくれました。レスリング経験のない者が３年間で見せた成長は、後輩にとって大変良い刺激となりました。最高の舞台で全力を尽くした選手達に感謝すると共に、今後さらなる飛躍を誓い長崎を後にしてきました。

インターハイ出場にあたり多くの方々から応援していただき誠に感謝申し上げます。日頃より応援して下さる皆様の期待に応えられるよう今後も努力精進し、再び全国へ挑みたいと思います。

果敢に攻める小野君

陸上競技部 二人の挑戦

７月31日に大分県で行われたインターハイに5000ｍ競歩で同時に２名が出場を果たした。東北地区大会で洞内晃喜（東北中出）は昨年度秋の東北新人戦で負けた相手にリベンジを誓い終盤まで激しく競り合ったが、ラストのペースアップに屈し昨年に続く準優勝でインターハイ出場を決めた。更に一般生ながら洞内と武者修行を敢行し東北各地の練習会に参加し、力を付けてきた宮内純也（十和田中出）は、最後まで諦めない歩きで初の東北大会入賞４位。インターハイ出場を決め大分の地に降り立った。

会場の大分銀行ドームは、連日36℃の猛暑続きで巨大なすり鉢状の一番下のタータン上は無風で競技開始時には40℃近い灼熱地獄となっていた。その中での競技は過酷を極めた。１組出場の宮内は灼熱だけでなく超高速のレース展開にスタートからオーバーペースを余儀なくされ1000ｍも行かずしていつもの冷静さを失ってしまった。歩形が崩れ出し３度の注意を審判に受けての失格。初の全国大会でのゴールはならなかった。２組出場の洞内はこれまでの全国区での経験も豊富で前日の刺激も好調。決勝進出濃厚と予想していたが、慣れない環境と暑さにうまく対応出来なかったのか、特に大集団での高速走行中の給水がうまくいかずに少しづつリズムを崩し悪いことに腹痛まで引き起こしてしまった。決勝進出の６着からも大きく遅れ12着でのゴール。

宮内は、途中失格のため自分が出ているはずの残りのレースを間近で見ながら早くも来年のインターハイと自分をシンクロさせていた。もう一人の洞内は、先に決めてきた東京国体での奮起を誓い再出発を始めていた。二人の挑戦はこれからも続く。

5000ｍ競歩１組　宮内純也　中央８番の左、ゼッケン５番

5000ｍ競歩２組　洞内晃喜　中央、ゼッケン11番

八戸学院野辺地西高等学校

のへじ祇園祭り　若い力で練り歩く

―― 題材『平清盛公、音戸の瀬戸、日招き伝説』 ――

８月18日㈰、野辺地町伝統の祭り「のへじ祇園まつり」に、今年も山車製作・運行に参加しました。

地域社会の伝統ある歴史と文化に触れる機会と捉え、参加してきたこの祭りも、今年で13回目となる山車運行ですが、本校三種祭（体育祭・文化祭）の一つとして、生徒・教職員・保護者が一致協力して行う行事として定着しています。

今年の山車の題材となった『平清盛公、音戸の瀬戸、日招き伝説』は、音戸の瀬戸（広島県）開削工事に着手した清盛が、今ひと時で完成という時に、夕日は西の空に傾き暗くなりはじめたのを見て、急ぎ日迎山の岩頭に立ち、今将に沈もうとする太陽に向かって、「返せ、戻せ」と叫んだところ、日輪はまい戻り、工事は見事成就したという伝説に由来しています。

準備は、山車小屋を立てる６月上旬から始まり、山車の清掃、褪せた色の塗り直しや、山車の装飾に使う銀玉や新聞紙を丸めた大玉作りなど、産業技術系や人間福祉系の授業の一部として生徒達が作業を進めてきました。いつもなら、夏休みにはいると急ピッチに進められる製作作業ですが、今年は悪天候のため、外での作業ができない日もしばしばで、完成が間に合うかどうか危ぶまれましたが、お盆前には何とか目処がつき、関係スタッフはホッとして胸を撫で下ろしていました。７日午後には、中谷野辺地町長も陣中見舞いに訪れ、ほぼ完成した山車を前に、製作に携わった生徒、職員の労をねぎらいました。

また、ＰＴＡ母親委員会の役員をはじめ、保護者、役員ＯＧの方々15名程の協力で、朝早くから参加生徒100余名分の給食の準備も行われ、７月からメニューを考えるなど会合を重ねて、子供達の頑張りをサポート。給食をおいしそうに食べるのを見て思わず頬が緩んだ姿が印象的でした。

表舞台として、山車を引いて練り歩いた生徒は約３分の１にあたる110名ほどでしたが、準備段階から携わって来た生徒達の力も加わり、神楽を演奏する生徒も曳き子の生徒も高校生らしく元気で明るい笑顔で町を練り歩き、見物する沿道の人たちからは「いいね、今年の西高の山車は。」という声も聞かれ、大きな拍手が生徒達に送られていました。

今年祭りは、裏方としてこの祭りを支えてくれたみんなに感謝しつつ、この伝統が、永く受け継がれていくことを心から願う祭りとなりました。

試合ができる喜び、そして健闘の夏
～応援ありがとうございました～

野辺地西高校の硬式野球部は第95回全国高等学校野球選手権大会県大会の４月当初、部員が８名しかおらず、春の県大会地区予選に出場できなかった。部員が８名の状態が続き、夏の大会出場も危ぶまれていた。部員たちは「夏の大会に出たい」の思いから練習に取り組んできた。６月上旬になって、職員・生徒の選手勧誘の努力が実って４人の３年生が入部することになり、部員12名のチームとして夏の大会に出場できることになった。

八戸長根球場での六ヶ所高校との対戦は延長までもつれる熱戦となった。４回裏に大量７点を奪いリードしたが、９回までに六ヶ所高校に追いつかれ、延長10回に入った。10回表に３点のリードを奪われ、その裏の反撃もかなわず、敗戦となった。

初戦敗退という結果にはなったが、部員不足と練習不足の中、健闘した選手に惜しみない拍手が送られた。短い準備期間とは思えない堂々たる戦いぶりであった。

今年度からチームを指揮している葛西監督は「新しく加入した選手も力量に差がなく、十分な練習が出来たので上位進出が狙えると思って戦いましたが、残念です。」と述べていた。主将の赤井君はこれまでを振り返って「部員不足で試合に出場できないことなど野球に集中できない時がありましたが、最後は自分たちのもてる力を発揮できたので良かった。悔いはない」と語り、チームメートとともに、試合ができた喜びにひたっていた。

新チームも部員不足が続いているが、秋の大会出場に向けて練習に励んでいる。我が野球部の今後の奮闘に期待してほしい。

第1回東北高校女子レスリング大会にて清水目姉妹女王・準女王に！

６月22日(土)～24日(日)山形市に於いて開催されました。第１回東北高校女子レスリング大会にて本校３年生の清水目優生さんが46㎏初代女王に輝き、また１年生妹の咲生さんも52㎏級に於いて、並み居る強豪を撃破して準優勝に輝きました。

これは、今年度からオープン競技として全国高校総合体育大会に女子のレスリング競技が長崎県島原市復興アリーナで開催される事になり、その予選会として今回初めて東北高校レスリング大会に女子の試合が実施される事になりました。

最初に妹の咲生さんの試合が開始され一回戦の相手は福島県の選手で、最初の試合で緊張したせいか前半は攻めあぐんでいましたが、緊張が解けた中盤はエンジンがかかり見事にフォール勝ち、二回戦も勢いに乗り岩手県宮古商業高校の選手をフォール勝ちで決勝戦に進みました。決勝戦の相手は八工大一高校の選手でしたが、いつも練習をしているせいか、闘い難く敗れてしまいましたが、まだ１年生であり今後が楽しみな選手であります。

優生さんの決勝戦の相手は前年度40㎏級全国高校チャンピオンの岩手県種市高校の選手でしたが、彼女自身も１年次に同級の全国チャンピオンに輝いており余裕の試合運びフォール勝ちを収め、その結果「清水目優生さん」は全国高校総合体育大会に出場が決まりました。

清水目優生・咲生姉妹の父親は本校レスリング部の卒業生であり、現在十和田市レスリングクラブにて子供達を指導しており、彼女達はその指導の基、小学生時代からレスリングを始めていました。

二人の今後の活躍を期待します。

46㎏級優勝した優生(左)と52㎏級２位の咲生

フォール勝ちで優勝を決める姉の優生

準決勝フォール勝ちで決勝進出を決める咲生

体育祭　雨で延期もクラスマッチで汗

７月５日㈮に開催される予定であった体育祭でしたが、連日の雨の影響でグランドコンディションが悪く、準備期間であった３日㈬に早々と延期が体育科から発表されました。生徒達からは、無念と安堵の表情が伺えました。

それに代わって、４日、５日の両日に急遽計画されたのが、クラスマッチ（球技大会）。延期の発表があった午後、急遽ホームルームを行い、メンバー決めにワイワイガヤガヤ、和気藹々とクラス模様が垣間見られました。競技は、七戸町天間林の体育館をお借りして行われました。

種目は、バスケットとバレーボールの２種目で行われました。試合が進むにつれ、生徒達の気合いも一入で、得点するごとに選手はもちろん、担任や応援の生徒達の声援も一段と高くなり、得点、失点に対する歓声やため息、一喜一憂する声が体育館に響き渡りました。男女、各学年、クラス毎と試合数が多かったため試合時間が限られていたため短く、本来の力が発揮できないままで終わったクラスも見受けられました。しかし、最後まで一生懸命にボールを追いかける選手達の姿が印象的でした。

延期となった体育祭は、８月末に計画されています。クラスマッチで見せたさわやかで溌剌としたプレイがまた見られることを期待しています。

トピックス

学　校　公　開

６月12日㈬、13日㈭の両日、学校公開が行われました。本校評議員をはじめ、野辺地町の教育委員会、保護者の方々が訪れ、校内を巡りながら授業を参観されました。

参観終了後、アンケートを実施。授業について、ほぼ全員の方に、「満足、ほぼ満足」との回答・評価をいただきました。

遠　　足

６月７日㈮、野辺地は曇り空のこの日、学年ごとの学校行事の遠足が行われた。

３年生は、十和田湖への遠足。空は晴れ渡り絶好の遠足日和。十和田湖子の口に到着して早速遊覧船に乗船し、一時間ほど湖上から眺める景色を堪能した。新緑が映える周囲の山々が湖面に映ると、生徒達は景色をバックに思い思いのポーズで記念の一枚を携帯電話カメラに収めていた。

休屋に到着後、クラスの集合写真を撮り、友達共に湖畔を散策し、高校最後の遠足を楽しみながら、思い出づくりをする姿に初々しさ感じた。

２年生は、開園30周年を迎える浅虫水族館を訪れ、海洋生物の神秘と美しさに触れる機会となった。到着後、各クラスできれいに彩られた30周年を示すベンチに腰掛け記念写真。１時間ほど館内を見学した。

この後、夏泊に場所を移し、昼食をとったあと、磯で水遊びをしたり、お店の釣り堀で釣りを楽しんだりした。

１年生は、三沢航空科学館で友達と楽しい時間を過ごし、新入生同士の友好を深めた。

春の環境美化活動

今年のＰＴＡ母親委員会が最初に行った活動は、環境美化活動でした。

当日はお天気にも恵まれて、在校生、保護者、ＰＴＡ役員ＯＢ、先生方など30数名の方々の参加を得て終了することができました。プランターに花を植え、校舎前に配置したり、校舎前や中庭の草取りをしたりして汗を流しました。

玄関回りが明るくなり、登校する生徒や来校された方々の目を楽しませています。長く咲き続けてもらおうと、その後も先生や生徒が水遣りを行っています。協力してくださった皆さんありがとうございました。

ボランティア活動

７月１日㈪野辺地町の十符ヶ浦海水浴場の清掃奉仕を行いました。１年生の産業社会と人間の授業に組み入れて毎年行われていますが、今年は海水浴シーズンを前に約１時間にわたって、ゴミ拾いを行いました。中には、浜辺に打ち上げられた大量の海草をレーキで掻き集め、額から大粒の汗を流している生徒もいました。

八戸学院短期大学附属幼稚園

ＰＴＡひかりの会「星の子講座」

　ＰＴＡひかりの会では、毎年「星の子講座」と題した父母研修を行っております。
　講師の方をお招きし、ヨガ教室・リースやアクセサリー作りなどバラエティーに富んだ講座を行っております。
　料理教室では、八戸学院短期大学の先生から、毎日子ども達と慌ただしく過ごしている私たちのために、安く！早く！おいしい！料理を教わったり、食に関するお話をして頂いたりしました。
　又、外部からの講師の方だけでなく、幼稚園の保護者の方から、パン作り等を教えて頂いたりもしました。毎年たくさんのお母さん方が参加してくれます。
　物作りだけではなく、救命講習など実際にＡＥＤトレーナーを使っての実践的な講習も毎年開催しております。子どもに起こりやすい事故への対処法なども教えて頂けるので大変勉強になります。子どもが通っている幼稚園で、お母さん方と子育てなどの話をしながら、体を動かしたり、もの作りをすることがこの「星の子講座」の楽しさではないでしょうか。

　以上は、本園のＰＴＡ委員長さんからの「星の子講座」の紹介です。幼稚園には、年間数回発行される「ひかりの会通信」というおたよりがあります。PTA委員の方の視点から情報発信をしながら保護者同士の相互関係を深め、様々なことに取り組み吸収しようとするお母様方のパワーの力強さを感じると共に、幼稚園が保護者の皆様に支えられている事に感謝です。

◀ひかりの会通信

ひかりの会通信

平成25年7月18日
八戸学院短期大学附属幼稚園
ＰＴＡ ひかりの会発行
第 １ 号

宜しくお願いします

５月１６日の今年度第１回目のＰＴＡ委員会にて、話し合いの結果、以下のメンバーを三役と決定致しました。宜しくお願いします。

今年度の星の子講座です（予定）

○レジンアクセサリー作り	開催終了
○ルーシーダットン＋アロマクリーム作り	開催終了
○救命講習	9月2日（月）
○スクールカウンセラー講話	10月10日(木)（年中参観日終了後）
○クリスマスリース作り	11月27日(水)
○お菓子作り+食育講話	日程調整中
○パン作り	日程調整中

バザー提供品のご準備お願いします

9月28日(土)の星の子祭バザーに向け、委員会では着々と準備を進めています。つきましては、夏休み明けから徐々に提供品の収集を始めたいと思いますので、ご準備のほう宜しくお願いします。
収集日などの連絡は、改めてお便りにて連絡させていただきます。
ご協力の程、宜しくお願い致します。

≪主な提供品の内容≫
・日用品…　タオル、石鹸、洗剤、シーツ、文具など（未使用のもの）
・食器類…　茶碗、皿、カップ、鍋など（未使用のもの）
・食　品…　缶詰、瓶詰め、乾物、インスタント食品など
・衣　類…　子供の衣類（クリーニング済のもの）
・その他…　手作り小物、ぬいぐるみなど

≪お受けできないもの≫
・大人用衣類
・消費・賞味期限が切れたもの
・不揃いや使用済みの食器類
・汚れた（壊れた）おもちゃ、ぬいぐるみ

星の子講座
レジンアクセサリー作り

６月１９日に、星の子講座「レジンアクセサリー作り」を行いました。毎年クリスマスリース作りを教えて頂いている、工藤洋子さんを講師に迎え、２０名のお母さん方と和気あいあいと作業しました。

（材料選び。。）

（真剣。。）

≪完 成 品≫

第１号発行が、学期末になってしまい、大変申し訳ありませんでした。
２学期もよろしくお願いします。
楽しい夏休みを！

八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ

避　難　訓　練

５月31日、今年度初めての避難訓練を実施しました。今回は、2011年３月11日の東日本大震災を受けて、大地震・大津波を想定し、指定避難場所である柏崎小学校に避難しました。外遊び中の子ども達は、「地震です！！」の放送をよく聞いて、初めて避難訓練を経験する子も周りの様子を見ながら行動し、全員が素早く園庭中央に集まる事ができました。大津波警報が出て、柏崎小学校へ避難する事を伝えると、いつもと違う避難訓練に子ども達の顔にも緊張感が伺えました。年長児と小さい子２人１組で手を繋ぎ、教師の話をよく聞いて柏崎小学校へ避難しました。「おさない、はしらない、しゃべらない」の約束をしっかり守り、幼稚園から小学校の３階まで５分で避難できました。今後も子ども達、教師共に真剣に訓練に取り組み、いつ起こるかわからない災害に備えていきたいと思います。

楽しいお料理会

６月のお料理会では、旬の食材として、４月に園庭に種まきをし、みんなで育てた小カブを使いました。

子ども達は、小カブの小さな種を、一粒ずつ丁寧にプランターに蒔き、毎日心待ちにしながら、水をあげていました。そして、料理会の前日には、立派に育ったカブの収穫が出来ました。

料理会当日は、ご飯を炊くのも、野菜を切るのも、全て子どもたちが行います。満３歳児、年少児も、レタスをちぎったり、しめじを小分けにしたりと、大活躍です。小さく、形が不揃いの小カブは、年長児が中心となって丁寧に切りました。年中児は、卵を割ったり、ホットプレートでそぼろを作ったり、それぞれが出来るお仕事を、自分達で探し、選びながら、メニューを完成させました。

完成した料理を、子ども達は大喜びで盛り付け、「このカブ、幼稚園のだよねぇ」「僕が卵割ったんだよ」「おいしいねぇ」と、みんなで楽しく会話しながら、自分達で作った料理を味わいました。

幼稚園の畑には、まだ、かぼちゃ、とまと、さつまいもがあります。二学期には、かぼちゃを使って、パンプキンパイやスープを作れたらいいなぁと思っています。

八戸七夕まつりで奨励賞受賞！

八戸七夕まつりで、奨励賞をいただきました。

ＰＴＡ手づくりのくす玉に、子ども達の作品も加え出展しました。

ＰＴＡの皆様ありがとうございました。

八戸学院短期大学附属幼稚園第二しののめ

おいしい給食いただきます

７月４日は恒例の給食試食会がありましたこの日は七夕にちなんだ名前が付いた、短冊の和え物、流れ星のすまし汁等食べる前から楽しみなメニューでした。約６割の保護者の方が来園下さいました。保護者の皆様は、給食着を身につけた子どもたちの張り切って食事のしたくをすすめる様子を目を細めてご覧になりながら、幼稚園の給食時間のひと時を、楽しみながらまた食事の量や味など対する感想などのお話も伺うことが出来ました。子どもたちもこの日は、いつもよりおかわりをしたり、苦手な食べ物もすすんで口にする様子もみられ、「ごちそうさま」の声も弾んでいました。

どきどき・わくわくお泊まり会

７月19日はきりん組さんのお泊まり会でした。７月になると、きりん組さんからは「肝試しが楽しみ」「スイカ割りがやりたい」「花火が出来るようお天気になりますように」「なかよしのお友だちと一緒に寝たいな）などの声が聞かれ、楽しみな様子が伝わってきました。当日はみんなの願いが通じたようにお日様が顔を出しました。土粘土製作や、絵文字ビンゴゲーム、お布団敷きのお手伝いが済んだ後は、園庭で夕食タイム。赤く染まった空を見ながら食べた「夕焼けカレー」のおいしかったこと。おしまいは、おまちかね花火タイム。花火を手にとっては、赤や緑・黄色と次々変化する色をお友だちと見比べたりしながら存分に夏の夜を楽しみました。もちろん、その後はお布団に入ってみんなぐっすり、楽しい夢をみていたようです。

光星学院イノベーションプログラム（基金）　寄付者ご芳名

平成１９年度以降寄付金累計額　１９７,６６９,０９４円

平成24年度　１９,５６６,２９８円（寄付協力者２８２名）

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申しあげます。

（順不同、敬称略）

八戸大学後援会
八戸大学父母の会
八戸短期大学後援会
八戸短期大学父母の会
光星学院高等学校父母と教師の会
光星学院野辺地西高等学校後援会
光星学院野辺地西高等学校ＰＴＡ
光星学院野辺地西高等学校同窓会
東北ペプシコーラ販売㈱
リスモン・ビジネス・ポータル㈱
和田代作
近藤潤子
寅谷正
沼田喜雄
㈲鳶紀伊国組
石田孝雄
森畑裕紀
小山田知明
中村覺
法官新一
古川聡
小山内泉
大関武仁
吉田尊徳
中村恵子
堀部めぐみ
大谷真樹
丹羽浩正
大沢泉
田中哲
日當光男
戸村春樹
中居裕
松本寿文
矢野峰生
村本卓
奈良卓
坂本貴博
長谷川美千留
樺克裕
グレゴリー・アンソニー
齊藤綾美
田村正文
杉山幸一
猪股清美
川村広志

岩本寿生
黒沢直人
小松良重
磯邊寿子
戸舘勉
沼岡裕一
晴山一貫
岡沼真由美
工藤美那子
新沼舘貴志
金田一春香
天満聡子
三田和典
吉田稔
小林喜輝
小澤昭夫
関川幸子
遠藤守人
瀧澤透
木鎌耕一郎
小幡佐久子
マルガリタ・フォステル
三本木温
篠崎良勝
三島隆章
井元紀子
金地美知彦
渡邊陵由
天間淳平
村田隆史
工藤祐太郎
島守寿明
正村公弘
松井一文
小笠原淳司
織戸浩
柳沢里美
池川智子
中村智恵
原子内まさ子
玉川恵里
畑中孝太
飼牛正親
附田勢津子
外崎充子
丸井洋子

田端利則
橋本妙子
佐藤愛子
杉山幸子
田中敬一
天摩雅和
小川あゆみ
安部貴洋
田中望
三村弥生
道合洋
青山純久
藤原真史
早川育子
村﨑匡裕
金入教人
木村玲子
山田佳奈美
茂木典子
小渡章好
髙橋俊行
大久保等
根城隆幸
佐藤千恵子
三浦文恵
馬場祥次
佐々木良幸
高橋昌樹
中村富美夫
楯山雄一
蛇口浩敬
蛭田由美
土井三乙
橋本功
玉懸多恵子
壬生寿子
仁木雪子
佐藤正芳
田名部麻野
下川原久子
山野内靖子
木村緑
三浦広美
市川裕美子
岩織美保子
佐藤真由美

工藤千春
岩浪始由
加藤俊一
納谷司
柴崎典子
伊藤瞳
小沢華生
佐藤基治
川村秀策
橋場保人
小野寺實
加藤康子
門馬修
能登昌則
若松仁
上野稔
安田正
岩舘精一
類家和以文
宮古博之
市川裕之
吉田正幸
細川祐二
舘長作
島脇多嘉男
早川公男
蒔苗裕司
小野千賀子
横浜涼子
横浜学
高橋享
中村良寛
蛯名淳子
山岸徳貴
仲井宗基
太田かおり
赤間俊勝
五十嵐敬彦
附田憲勇
池川亮
小坂貫志
金渕清文
松本佳子
三戸祐介
中村智美
工藤美恵子

岩舘千世
稲田翔吾
下田香織
橋本佳代子
仲安麻衣子
佐藤浩史
横山僚
舘石盛行
三上翔美
村上省二
石垣隆三
上明戸良春
木村正則
東出実
坂本悟一
髙坂郁子
法官廣子
中居渉
石橋鈴香
浜口敦子
日渡文雄
永井英代
松橋と志
石ケ森正夫
田頭寛
松橋純悦
西村裕行
佐藤美佳
岩舘亜沙美
小林嗣子
齋藤弘実
畑中裕章
迫祐子
岩葉慶喜
宍戸晶
類家清斉
伊賀美模
南豊
佐藤一成
長澤秀樹
苫米地高志
島田博美
小泉順一
織川国光
山内出
梅木喜代広

鳥谷部寛明
籏谷寿逸
成田富美仁
浪岡賢吾
三上晃
川口治子
宿野部昭裕
川村将人
若狭孝弘
鈴木治
小坂保
木村広治
三橋忠行
島谷章子
道合康子
滝田いと子
東出まさえ
岩舘由香里
河原木祥子
鶴飼由希
下崎沙野
成澤友信
山中千裕
安藤知栄美
小野寺成江
一戸麗美香
石澤幸恵
長島はる香
小松知子
山西幸子
馬場嘉久子
吉田ひろみ
黒沢朋恵
橋本淑恵
岡村美紗子
重文字聡子
大関幸子
相馬美智子
乙部由美子
田中加奈子
扇藤香子
松倉由美子
早川幸久
松原健夫
足澤和浩

理事長散策：
玉川学園の小原芳明学園長先生ご夫妻をお迎えして

７月19日、八戸駅12時53分着の新幹線で来八された、小原芳明学長先生ご夫妻をお出迎えした。八戸は生憎の曇り空でありましたが、颯爽とした学長先生ご夫妻を確認して本学院にご案内した。

玉川学園と本学院の関係については、昭和39年まで遡る。当時は光星学院高等学のみの法人でしたが、初代玉川学園の小原國芳園長先生をお迎えしてのご講演がご縁でした。國芳先生は、戦前戦後の新教育の実践者として教育界に新風を注いだ先生でした。本校でのご講演の後、見渡す限りの畑地の中の校庭に立ち、本学院の初代中村由太郎理事長先生に、「ここからあの階上岳の麓まで土地を買って、私学の教育と経営に…」と言われ、中村由太郎理事長先生はスケールの大きな教育事業家ととても感心されたとのことでした。今、その時の土地が湊高台として整備されていて、その先見の明には驚くばかりです。

今回ご来訪の小原芳明学長先生は、そのお孫さんにあたり玉川学園の３代目の学園長・理事長でおられます。風貌も國芳先生によく似ておられ、國芳先生を思い浮かべるのでした。芳明先生のご案内をしながら、改めて玉川教育が私の心のより所となっているのを確認したのでした。また、芳明先生におかれましては、文部科学省の審議委員はじめ多くの私学団体等の重責を勤められ、光星学院も何かとお世話になっているところです。

この日は、甲子園をかけた光星高校野球部の対聖愛戦の県予選がありましたが、すでに玉川学園の秘書室から芳明先生には結果が伝えられていて、来年に向けての激励を頂きました。午後には八戸学院美保野キャンパスにご案内し、大谷、外崎両学長と古川本部局長、松山学務部長と教育運営についてしばし懇談。その後美保野のキャンパスを一巡し、キャンパスのご感想と、土地の確保は大事とのご助言を頂きました。

ホテルまでの道程で、是川考古館にて国宝合掌土偶を見学され、夕方は八戸学院短期大学が参加する、八戸七夕祭りの流し踊りを見物しました。肌寒い気候でしたが、オリジナルの手拭を首に巻かれ、

地域と共に歩む本学の姿勢の一端をご覧いただきました。夕食は三浦哲郎ゆかりの「重兵衛」にて、玉川学園に縁のある方々を交え懇談に花が咲きました。

翌日20日㈭は湊高台キャンパスにご案内しました。光星高校では橋場校長他幹部の先生方の出迎えを受け、授業のない校舎を一巡されました。校長室に飾られている小原國芳先生直筆の「源深流遠」に目を留められ感慨深げでした。体育館では、小野寺先生率いる女子バスケット部の規律正しい元気で立派な挨拶をもらい面目躍如でした。

隣接の附属幼稚園を見学された後は、震災の跡地そして三陸国立公園になったばかりの蕪島、白浜、種差と海沿いをご案内しました。震災の記録写真と照らし合わせての見学はリアルなもので、市街地と自然が隣接しているという立地に、国立公園の指定にはご納得の様子でした。お帰りになる15時６分発の新幹線まで、しばしの時間、八食センターにて海の町八戸の香りを楽しまれました。

第23回 八戸学院親睦 チャリティーゴルフコンペ開催！

2013年（平成25年）４月１日より法人各施設の校（園）名を変更し、統一性を図るため八戸学院といたしました。同ゴルフコンペの名称も「八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ」と変更し、８月６日㈫八戸カントリークラブにて盛大に開催いたしました。

今年も県内外の企業や外郭団体（父母の会、後援会、同窓会）のご協力をいただき、過去最多となる185名の方々にご参加いただき、各コースに分かれ記念撮影の後スタートし、天気にも恵まれた中、懇親を深めながらプレーを楽しんでいました。

コンペの終了後には、八戸プラザホテルにおいて表彰式及び懇親会が行われ、大会長（法官新一理事長）の挨拶のあと、チャリティーの収益金が三陸復興国立公園に指定された「種差海岸振興のための支援金」として八戸市へ寄贈されました。

表彰式及び懇親会の様子

表彰式では、成績発表や抽選会などで大いに盛り上がり賑やかな雰囲気の中、無事終了いたしました。

なお、コンペ優勝者は新野鴻昭様（コスモ機電株式会社）でした。

中コース　８：31スタート

西コース　８：31スタート

南コース　８：31スタート

八戸小唄流し踊りに短大生が参加

７月19日㈮午後５時30分の号砲とともに、八戸市の中心街を優雅に彩る夏の風物詩である第43回八戸小唄流し踊りに八戸学院短期大学１年生約220名が、若さあふれる踊りと彩りを添えた。

本学が八戸小唄流し踊りには、平成20年から毎年参加し、今年で６回目の参加となる。幼児保育学科、ライフデザイン学科、看護学科の１年生が体育の時間を利用し本番へ向けた練習を体育館で実施してきた。流し踊りの講師には、体育の専任講師を中心に踊りの基本から手ほどきをし、最後のまとめとして、泉流日本舞踊師範の泉紫峰氏、泉彩菜氏から、踊りの指導をしていただいた。練習に取り組んだ学生たちは「手は中指に力を入れてしっかり伸ばして」や「肘をしっかり伸ばして」などのアドバイスを受けながら、カモメや波の動きを表現する優雅な振り付けを熱心に踊っていた。緊張しながらも、いかに美しく踊るかの細かいアドバイスを受け、のみ込みの早い学生たちは踊るたびに上達していった。

当日は曇りの天候ではあったが、12団体約千人の踊り手たちが、号砲を合図に十三日町のチーノ前をスタートし、七夕飾りの下をゆっくり進んだ。哀調を帯びた八戸小唄の調べに合わせ、八戸市連合婦人会を先頭に日本舞踊の団体が次々と登場した。本学は12団体中最多数の約220名は最後から２番目のスタートとなった。出番になると色鮮やかな浴衣に身を包んだ学生たちが中心街を彩り、緊張しながらも一生懸命踊っていた学生たちのまぶしい笑顔がとても印象的であった。沿道で見守っていた市民の方々から大きな拍手をいただき、八戸学院短期大学生が若さあふれる華やかな踊りを披露した。

CAMPUS 八戸学院
第30号

発行　学校法人光星学院
〒031-8544 青森県八戸市美保野13-98　TEL 0178－30－1411
URL　http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/